



# がるがも



第61号

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2024年〈令和6年〉5月



## 病院長就任のご挨拶

病院長 皆川 真規



このたび、中島弘道前病院長の後任として令和6年4月1日から病院長を務めることになりました。

就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

千葉県こども病院は昭和63(1988)年10月の開院以来、今年で36年目を迎えました。

私はこども病院の歴史に並走するように小児科医師としてのキャリアを積んでまいりましたが、縁あって平成23(2011)年4月に千葉県こども病院に赴任しました。この間、医学の進歩により医療が担うべきものがだいぶ変わってきたと感じます。特に在宅医療の状況は大きく変わってきました。30数年前は人工呼吸器から離脱できる見込みのない患者さんには人工呼吸器は装着しないものであると教えられました。現在では、人工呼吸器を装着した患者さんも自宅で訪問診療・訪問看護のサポートを受けながら家族との大切な時間を過ごすことができるようになっていきます。長期的な人工呼吸器管理や経管栄養に関する医療的な技術は、30年前の医療では必要なかったことですし、長期継続していったときに経験されるようになる合併症も未知の世界です。医療により根治できる疾患は、今なおそれほど多くはなっていないのも事実ですが脊髄性筋委縮症という疾患には新規の遺伝子治療薬が開発され、大幅に予後が改善することが期待されています。一方、ウイルス感染症との闘いは、相も変わらず繰り返されています。新型コロナウイルス感染症は発生当初のような重症化のリスクは極めて低くなり、大きな流行はみられなくなったものの小さな流行の波は現在でも続いている状況です。最近、麻しん(はしか)の海外からの持ち込みに注意喚起がされています。麻しんは空気感染、飛沫感染、接触感染と感染力が極めて強く、感染した場合ほぼ100%が発症、入院率も高く重篤な感染症ですが、ワクチンによる予防が極めて有効な疾患でもあります。自分の母子手帳を見直してみましたが、昭和41(1966)年末にKL法(生ワクチンの副反応を軽減するため、不活化ワクチンと生ワクチンを1ヵ月程度あけて接種する方法だったようです)というものの接種を受けていました。麻しん生ワクチンは昭和53(1978)年10月に定期予防接種に組み入れられましたが、平成年代の初め頃は多くの麻しん患者さんの診療にあたりました。今の新型コロナウイルス感染症に対しての感染防御策からはとても想像できないようなウイルス曝露状態でした(今、麻しん患者さんが受診されたときは新型コロナウイルス並の対応が求められますが)。そのときの曝露のおかげか、私の麻しん抗体価は感染を防げるくらいの値を維持していますが、麻しんウイルスへの自然曝露がほとんどなくなった現代は一般的に2回目の接種が推奨されています。

日本は少子高齢化社会を迎えています。未来の社会は子どもたちが作り上げていくものです。小児医療の重要性が低くなることはないと思います。現在の子どものために、未来の子どものために、こども病院は必要とされる役割を果たし続けられるよう、すべての職員とともに頑張っていきたいと思っています。

# 2024年度新体制



副病院長 仲野 敦子

この度、副病院長を拝命いたしました。平成18年に当院に赴任し、耳鼻咽喉科医として勤務していましたが、この2年間はやや臨床を離れて医療局長、医療安全管理室長としての仕事に従事してきました。今年度は「医師の働き方改革」に合わせた改革も必要になると考えておりますが、引き続き当院が子ども達やご家族にとって安全で質の高い医療を受けられる病院に、また当院で働くスタッフにとって働き甲斐のある病院となるように、尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局長 山端 清勝

このたび、令和6年4月1日付の人事異動により事務局長に任命されました。私はこれまで、千葉県健康福祉部の健康福祉政策課や疾病対策課などでの勤務を経験してまいりましたが、病院勤務は初めてとなります。1日も早く病院スタッフの一員として、役割を十分に果たすことができるよう努めてまいりたいと考えております。「その子らしく、その子のために」という、子ども病院の基本理念のもと、事務局の業務も患者さんや病院職員にとってより良い環境の整備、病院経営の健全化など多岐にわたることと思います。これらの業務に一生懸命に取り組んでいく所存ですので、よろしく御指導・御鞭撻のほどお願い申し上げます。



看護局長 竹中 敦子

4月に看護局長を拝命いたしました。子ども病院は9年ぶりとなります。久しぶりに、子ども病院の理念にある「その子らしく、その子のために・・・」に触れ、今、看護師は何をすることが大事なのか、考えています。私たちの日々のかかわり一つひとつが看護になっているのでしょうか。私たち看護師は、お子さん・ご家族、そして私たち職員相互にも安心と安全を提供することが大切だと考えます。これまで以上に、相手を想い、考えて看護を実践することのできる看護師育成に取り組みます。そして、お子さんとご家族から、“この病院に来てよかった”と思っただけけるよう、職員と共に歩んでまいります。



医療局長 數川 逸郎

この度、医療局長を拝命しました。引き続き、子ども・家族支援センター / 地域医療連携室を所管いたします。2年前に当センターを担当して以来、センター内の業務整理を行いました。いまままでセンター外組織であった成人移行支援室と病床管理室をセンター内に移管することで、入院から退院、在宅医療から成人移行へとシームレスな支援が行える体制とし、また、病床管理を同時に担うことで入院の受け入れがスムーズに行えるようになることを目指しております。今後の人口減少社会を見据え、子どもの支援者が減少したとしても質が落ちることのない体系的な支援体制を構築していくことや医療DXに対応していくことが今後の課題です。今後ともよろしくお願い致します。



看護局次長 高橋 みどり

令和6年4月より、看護局次長を拝命しました。昨年度まで、副看護局長として教育・総務を担当し3年目となります。看護局次長は、千葉県子ども病院で今年度から設置された新たな役職であり、看護局長補佐、経営改善に関する事を所管業務とします。特に、診療報酬改定となる本年は、適切な診療報酬算定のために事務局・医療局と一体となり体制を整えていきたいと思っております。がんセンター、救急医療センターでの経験を活かし、優しく質の高い小児看護が実践できる看護局を目標に頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

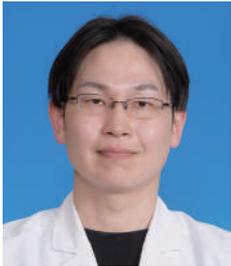
## 新任医師紹介



新生児科医師  
青柳 藍

2022年より新生児科に勤めています、青柳藍です。千葉で生まれ育ち、大学卒業後は沖縄で小児・新生児医療を学んできました。千葉に戻ってきて、改めて桜が綺麗だなと感じております。

新生児医療に携わるようになり、赤ちゃんの治療だけでなく、胎児期に病気がわかり不安を抱えたまま出産されたお母さん、出生後に具合が悪く心配だらけのご両親にも寄り添えるように心掛けています。生まれてきた赤ちゃんが1日でも早く、お家に帰り、ご家族とともに楽しく過ごせるよう精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。



精神科医師  
河岸 嶺将

4月より着任いたしました、精神科の河岸嶺将（かわざし りょう）と申します。2018年には千葉県こども病院で研修を経験しましたが、この度は常勤として戻ってまいりました。昨年までは千葉県総合救急

災害医療センターに勤めており主に急性期の成人の精神疾患を診療していましたが、今年度からは児童や思春期の精神疾患を含む困りごと、生活への課題について対応していけたらと考えております。

なかなか予約が取れないとお声を頂いております。少しでも改善できるよう努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 令和6年度新採用者を迎えて

令和6年4月1日、県庁での辞令交付式を終えた29名の新規採用看護師が、千葉県こども病院の新しい仲間に加わりました。新規採用者の中には、4名の既卒者も含まれています。皆、こども病院の「その子らしく、その子のために」という基本理念に感銘を受け、北は北海道から南は九州まで様々な都道府県から、高い志を持って集まってくれました。



真新しいユニフォームに身を包み、入職当初は緊張した面持ちでしたが、初期研修での講義やグループワークを通して徐々に打ち解けていき、活発な意見交換も行えるようになりました。2週間強の研修を終え、4月18日には配属発表があり、今は配属先の病棟で素敵な看護師を目指して精一杯頑張っています。

# 腎臓科 紹介

腎臓科は、腎臓の病気に対して内科的にアプローチをしていく診療科です。

具体的には検尿異常や慢性腎炎の精査、ネフローゼ症候群（尿から沢山の尿蛋白がでてしまう病気）の管理や腹膜透析管理など行っております。また、場合により急性血液浄化療法を行うこともあります（当院では維持血液透析は行っておりません）。

皆さん、普通に尿がでること、当たり前と思っておりますか？尿には、水分はもちろん、それ以外に様々な物質が含まれ、身体のバランスをとっています。実はこれ、とってもすごいことなんです。さらに腎臓は沈黙の臓器といわれるくらい、調子が悪くても頑張ってしまう。そのため、年に1回は皆さん、最低でも尿検査をして腎臓が元気であること、確認してあげてください。もし異常に気がついた場合は、そのままにせず精査を行うことが大切になります。

残念ながら腎臓の病気は、風邪のようにすぐ治るものは少ないです。ですが少しでも皆さんが普通の生活を送れるように、様々な部署と一緒にサポートしていきたいと思っております。

何かありましたら紹介状を持参のうえ受診予約をお願い致します。もちろん、緊急受診が必要でしたら、医療機関より直接ご連絡いただければ対応させていただきます。



- 1 久野 正貴 (ひさの まさたか)
- 2 東京都
- 3 様々な科に相談がしやすいところ
- 4 ディズニーリゾートのキャストさん
- 5 夜の海辺に行くこと
- 6 録画したテレビ番組をみる

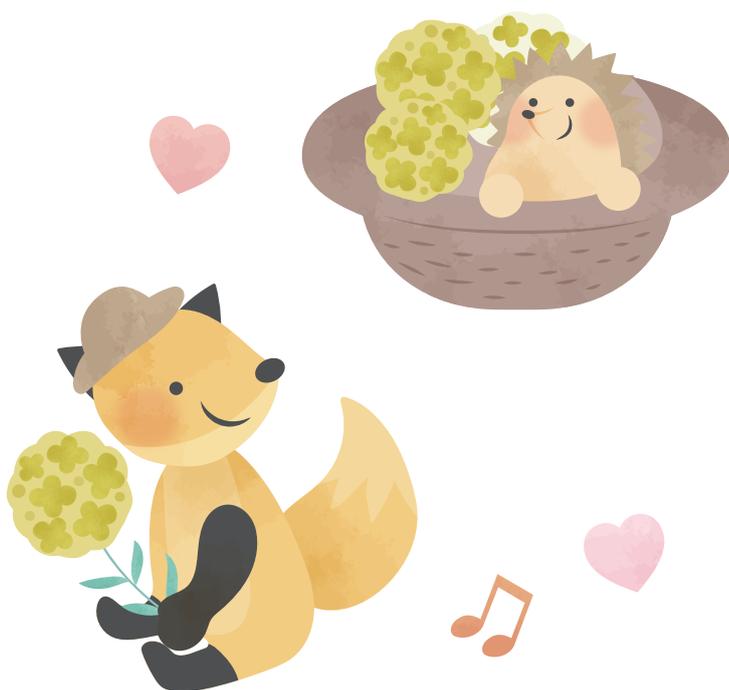


- 1 安藤 太郎 (あんどう たろう)
- 2 東京都
- 3 患者さんは皆小児で、医師も皆小児科医で優しいところ
- 4 想像できません。。。
- 5 適量のお酒を飲むこと
- 6 家族で出かける



- 1 青藤 潤 (せいとう じゅん)
- 2 千葉県
- 3 こどもが圧倒的に多いところ
- 4 起業家、投資家
- 5 ゴルフ
- 6 ドライブ、昼寝

- 1 氏名 2 出身地 3 こども病院の好きなところ  
4 医者になってなかったら？ 5 ストレス解消法 6 休日の過ごし方



# 病理診断科

患者さんにとって適切な治療を選択するためには、適切な診断が必要になります。診断のために行う検査には、血液検査や尿検査、超音波やX線による画像検査、呼吸機能や心電図などの生理機能検査などさまざまなものがありますが、患者さんの体から採取された病変の細胞や組織を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。

病理診断科では、尿や髄液といった液状検体に異常な細胞が含まれていないかを判断したり、手術で採取された組織にどのような病変がどのくらい広がっているか・治療はどれくらい効いているかなどを検討して、主治医に報告しています。

顕微鏡で観察するためのプレパラートができあがるまでにはいくつもの工程があり、その多くは検査技師が手作業で行っています。また、プレパラートを顕微鏡で観察したあとに化学的・免疫学的な方法を追加して、病変の特徴をくわしく調べることがあります。このため、病理診断は他の検査にくらべて結果報告までに時間がかかります。十分な検討ができるよう努力していますので、ご理解いただけますと幸いです。

患者さんやご家族と直接お会いすることはありませんが、病理診断は主治医に報告され、診療に生かされています。



- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 ども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら？
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方



- 1 成毛 有紀 (なるけ ゆき)
- 2 千葉県
- 3 スタッフ同士のコミュニケーションが取りやすい
- 4 教師
- 5 体を動かす
- 6 家族で麻雀



## 退任のご挨拶

2024年3月末日をもちまして千葉県こども病院を定年退職いたしました。2002年4月に循環器科医長として赴任してからの22年間、2022年に病院長となつてからの2年間、多くの皆さまに大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

私が当病院に勤め始めた頃はまだ医師も少なく、心臓血管外科のスタッフと共にそれこそ寝食を共にしつつ診療にあたって参りました。そうした中で多くの患者さんとの出会い、喜びや悲しみをともしてきました。また心疾患のカテーテル治療が大きく広がり、当院でも積極的に取り組んできました。私の専門の循環器疾患以外でも近年の医療の進歩は著しく、医療そのものが大きく変化しつつあると実感しております。

近年、人間社会の存続のためのSDGsへの取り組みとそれに反する世界的な紛争の勃発や、新型コロナウイルス感染の世界的な流行など、社会が大きく様変わりしつつあることを多くの方が実感されていることでしょう。その中で進められてきた医療政策により、こども病院でも医学研究倫理、医師研修制度、医療安全、感染管理、労務環境整備、働き方改革など、様々な課題に取り組んで参りました。

この間困難な社会の影響もあり、経済格差による貧困家庭の増加、子育て家族の孤立化、小児への虐待増加、こどものメンタルの悪化などの問題が明らかになっています。また医療的ケア児の増加、在宅重症小児の増加、入院患者の重症化も顕著となりました。

このように様々な問題が増えてはいますが、こども基本法、こども家庭庁設立など、こどもを尊重し、こどもの意見を取り入れようとする社会意識変革の動きも活発化しており、こどもたちの未来はより明るいものになると私は信じています。

そうした中でこども病院の使命は、小児高度専門医療を中心としたこどもへの医療であることはこれからも変わりませんが、身体だけではなく心や社会的な困難に対しての支援がより重要になってきます。こども病院ではこれまでもそのような活動を行ってきましたが、そうした役割をさらに発展させるためにこれからも様々な変化を必要としています。



一方、こども病院には施設の老朽化をはじめとした多くの課題が残り、その解決へ向けた今後の病院の在り方への道筋を作れなかったことに心残りがあります。

これらの課題は皆川新病院長らに託しますが、引き続き皆様方のご支援をお願い申し上げます。そしてこれからのこども病院の益々の発展と、皆様方および未来のこどもたちの幸せを心からお祈りいたします。

令和6年5月  
中島 弘道